御存与太話

国枝史郎

青空文庫

新青年の五月号平林初之輔氏の「犠牲者」は、感銘の深い作でした。いろいろの緊急な社会問題が、ずいぶん沢山織り込んであるのが、際立った特色をなして居ります。遂に日本の探偵創作界へも、こういう作が産れたかと、感謝したいような作品です。私はこの作を読んだ時、ガルスウォシイの社会劇を、ふと心へ思い浮かべました。この作を読んだ大方の人は、可成り長い間考えさせられ、憂鬱になるだろうと思われます。

×

小酒井不木氏の創作の中に「迷理的笑い」というようなものが、加味されて来たのは特色です。まさに鋳型から出ようとしている、こう云っても可さそうです。甲賀兄よ、安心して可なり。

×

川田功氏の「或る朝」は、恰度一杯の清涼剤を、飲み干したようなスガスガしいもの、いい気持で読みました。文章に難は無いでしょうか？　併しこの点は私などより、もっと名文家として定評のある、他の誰かが批評すべきでしょう。

×

「ホウィッスラアまいる」と「厄払い」牧逸馬氏の短篇で、例に由って絶好のコント、この二作の特色は、利己主義者と利己主義者とが、鉢合わせをした其結果、「笑い」が醸されたとい

う点でしょう。喜劇発生の原因は、随分いろいろありますが、利己主義者同志の鉢合わせなどは、皮肉な喜劇を産むようですね。

×

本田緒生氏の力作に、久しく接しないということは、一体どうしたというのでしょう。「蒔かれし種」というような、ああいう力強い雄篇は、定評ある探偵作家にも、容易なことでは作れますまい。本田氏が怠けて作らないのか、作っても編集者の気に入らないのか？　一寸(ちょっと)この点心元無い。

×

森下雨村氏突然来名、風の如くに来たり風の如くに去る。その間わずか一時間半！　私、小酒井氏と眼を見合わせる。「東京の方は素早いですね」「いや其上土佐人です」

×

次は私の思い出話――。

緒生氏は瀟洒たる好青年、しかし一旦ペンを持つと、随分頸烈な批評をします。遂に私の容貌を、謀反人面(むほんまで)に迄出世させました。しかし親愛なる緒生氏よ、これは私の罪ではなくて、私の病気の罪なのです。由来バセドー氏病という奴は、眼球突出、甲状腺膨脹、全身ルイ痩、指頭戦慄、一見すると中風患者に見えます。思い起こす十年の昔、病気にならない其頃のこと、タキシイドを着てホテルへ行ったら、或る優しい未亡人が「すっかり若紳士の典型ですね」こ

う云って褒めてくれました。唐桟の袷に無地の羽織、道頓堀を歩いていると、親切らしいゆきずりの芸者が「屹度江戸の芸人ですよ」こう云って嘆賞してくれました。尤も婦人に褒められたのは、この二回しかありません。それで覚えているのです。だが短い人生の中で、二度迄婦人に褒められたら、もう本望じゃああありませんか。但あくどい自惚家は、毎日婦人に褒められないと、気色が勝れないようですね。そういう手合は文壇にもいます。いつも作品が褒められなければ、気色が悪いというようなね。――と、この一句を云い度いために、思い出話をしたというもの。

×

毒舌名誉という点で、正直正太夫こと斎藤緑雨、極楽浄土に居を構え「悪口読本」を編サンし、阿弥陀如来を門下とし、指南最中ということです。彼を現代へおびき寄せ、文壇を見せたらどうでしょう？　彼すっかりアキレ返り、「ヤクザだなあ、俺はけえる！」――で急いで引っ返すでしょう。あんまり周章てて引っ返したため、道を間違えて地獄入り、しかし緑雨驚かない、早速閻魔様をとっつかまえ、「浮世文学ムダ話」そいつを遣り出すに相違ありません。爾来閻魔様物解りがよく、文士の亡者が来る毎に「ナニ文士だ、途方もねえ奴だ。此処へは置けねえ、極楽へ行きな」

青空文庫情報

底本：「国枝史郎探偵小説全集　全一巻」作品社
　　2005（平成17）年9月15日第1刷発行
底本の親本：「探偵趣味」
　　1926（大正15）年6月
初出：「探偵趣味」
　　1926（大正15）年6月
入力：門田裕志
校正：きゅうり
2019年3月29日作成
2019年4月1日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

御存与太話

国枝史郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/